

近畿大女短大 ○坂本 久子  
奈良女大家政 北村 君  
近藤 公夫  
疋田 洋子

1. 就学時の子どもにとって、住居内の勉強場所が、ただ単にそこで勉強するという生活行為にとどまらず、子ども自身の場と意識されていることが多いことから、この勉強場所が子どもたちにとって、望ましい状態に配慮されることが、大切であろう。

しかし、この勉強場所も住宅の規模によって、いろいろな影響をうけているのではないかと考えられることから、本研究は、住宅規模の小さい集合住宅と、比較的広い一戸建住宅居住の中学生を対象に、勉強場所の実態と満足度、さらに、そこについて感じていることなどを調査し、今後の子どもの住環境を考えてゆく上での一助とするものである。

2. 大阪府千里ニュータウンの青山台中学校と竹見台中学校を通じて、全生徒にアンケート用紙を配布し、生徒自身の手で記入してもらった。回答者数607名。

3. 1)ほとんど(97%)が、専用の勉強机を持っているが、専用机のみ勉強に使用する人は、6割強であり、あとは別の家具をも併用して勉強している。

2)勉強場所に対して、54%が満足しているが、これは住宅の規模が小さくなるほど、また、家族人数が多くなるほど、満足層は減り、不満足層は増える傾向にある。

3)勉強場所について感じていることから、勉強場所における満足度を決める要因の一つは、その場所で1人になれるという感じが持てるかどうかということにある。